

取材で行くのは初めてだ 有馬富士公園

ふちんかん

◇ 有馬富士って何？

〇〇富士って名前の山は全国にたくさんありますが、ほとんどが愛称であって、山の名前は別にあることが多いです。今回の有馬富士は本当に山の名前が有馬富士。標高374mの円錐型の山なのです。



◇ 有馬富士ってどこ？

三田市の東部にあります。新三田から約3キロ。新三田を挟んで人と自然の博物館と対称の位置にあります。

◇ 有馬富士公園って？

有馬富士を中心に周囲の自然をモチーフに4年前に開園した県立公園です。ただ有馬富士周辺の整備はそれ以前からされていたから、今回訪れた有馬富士公園の「出会いのゾーン」が4年前に開園ってことでしょうか。特徴は「70haと県内最大の都市公園」であり、その中に「野外学習の拠点となる自然学習センター・地元の民話を元に作ったあそびの王国・草地・水辺・林の生態園など大規模な自然園」があります。また休・祭日は駐車場が無料になるようです。ただ今年の4月に「あそびの王国」ができてからは人気沸騰でして、天気の良い休日ですと駐車場の待ち時間が1時間を超えることもあります。おでかけはお早めに。

◇ 有馬富士を眺める

ビアパーク神戸に行くのに手間取ってしまい、今回が初取材となる有馬富士公園に着いたのが、日没直前。いそいで自然学習センターを通り抜け、有馬富士の見えるテラスへ。ここから有馬富士までの間に福島大池があり、福島大池に向けて急な下り坂になっているため、木々の邪魔が入らずに有馬富士を眺めることができます。公園内のいたるところから有馬富士を眺めることができますが、この場所が一番きれいに見える場所だと思います。外は冬の訪れを予感させる冷たさでしたが、刈り取った稲を焼いた煙が低く流れて谷間を埋め、空には薄い絹雲が夕日に染まり、なかなか趣のある夕景でした。

◇ なかなかやるな自然学週センター

さて写真も撮ったし、次は館内の見学です。

館内は、三田の里山の自然を学習できるように展示があります。よくあるパネル展示だけではなく、巨大模型有り、直接触れる展示有り、迷路有り、よく工夫された体験型の展示です。とくにトンネルを歩いて、天井のところどころにある透明半球を覗くと、実際の里山の地面から顔を出したような格好になる工夫が面白かったです。北海道の旭山動物園で有名になったギミックですが、周りの子どもたちも楽しそうでした。

この手の資料館や博物館の中には、施設を作ったときに導入された展示から何の変化も手入れもなく、壊れたところがそのままになっていたり、廃棄された後の補充が無くてスカスカになっていたりという悲惨なところが、わりとよくあります（大阪府内の施設に多いですな）。それに比べるとまあ新しいということもありますが、人と自然の博物館もこの自然学習センターも人材の確保や保守・新設のためのお金が十分にかけていると感じます。

うちは子連れで何度か来たことがあったのですが、駐車場から福島大池まで歩くと、その途中途中に学習パネルがあったり、野鳥観察小屋があったり、なかなか楽しめます。あそびの王国もあり、お子連れのご家庭でも安心して一日過ごせる公園といえましょう。

後でネットで見してみると、この自然学週センターは人と自然の博物館と連携がされており、職員も派遣されているようです。また将来的に NPO 委任も視野にボランティアとの協働によって運営されるいるそうです。

写真を撮ったらさっさと退散するくらいのつもりだったのに、この自然学習センターにけっこう時間を割いてしまいました。予想以上に良かったです。このあと、車を走らせて有馬富士の麓（登山口）まで往復しましたが、残念ながら閉園時間になってしまい、取材はここまで。



ちかくの道ばたから コスモスと有馬富士